

メディア（なかでも報道・論評機能をもったジャーナリズム）は私たちのものの見方や生活に深く関わっています。ジャーナリズムを的確に読み解く眼はどのように獲得できるのかを考える「新聞利用学習（NIE）」について研究しています。今後は、メディア・リテラシーへと展開したジャーナリズムの読み解きの研究を進めたいと思います。担当科目は「ジャーナリズム論」「メディア倫理」。

1. 専門演習の目標

主に活字メディア(報道メディア)を対象としてメディア、ジャーナリズムを読み解くことを通して、ジャーナリズムの問題を考えます。関連する知識だけでなく、コミュニケーション力、分析力、思考力を身につけることを目標とします。

2. 専門演習で扱う課題と内容

新聞記事、報道写真、週刊誌記事、広告、ノンフィクション、ドキュメンタリーなど映像を含めたテキストには様々なメッセージや意図が込められています。これまで新聞を学習教材として利用する新聞利用学習（NIE: Newspaper in Education）を中心にゼミを行ってきました。それらの蓄積を踏まえて、メディア、ジャーナリズムに表現されている情報を読み解いていくことで、メディア・リテラシーとジャーナリズムの関係を考察します。そのためにも数多くの図書や資料を読むこと、自分なりに考えること、その考えを表現すること、が求められます。

3. 授業の進め方・内容

基本的にはゼミ生の皆さんと相談して決めたいと思いますが、概ね次のように考えています。

3回生前期はジャーナリズムおよびメディア・リテラシーに関する知識およびコミュニケーション力を身につけるため、多くの文献を読み、ディスカッションを中心にゼミを進めます。夏休みには合宿を行い、前期のまとめと後期に向けた取り組みを計画します。後期では、ジャーナリズムを読み解く力、メディア・リテラシーの力を獲得することを目指します。個人あるいはグループで研究成果をまとめます。

4回生前期では、卒業研究をまとめるための文献や資料を集めてもらいながらディスカッションを行い、各自研究テーマを深め、研究成果につながる枠組みを作ります。後期では、卒業論文あるいはリサーチペーパーを作成し、それらを卒業論集としてまとめます。

4. 必要とする知識

何かを知っている意味での「知識」より、あらゆることに興味関心を抱く「雑学力」、何でも面白くしようとする「積極的行動力」、数多くの読書や情報収集をいとわない「情報（多読）力」を求めます。

5. 関連する分野・科目・知識

「メディア社会の歩き方」（世界思想社）に書かれているメディアについての基礎知識、「ジャーナリズム論」「メディア倫理」などの科目を受講していることを望みます。

6. テキスト・参考書・機材(受講生が標準的に持つもの)

柳澤伸司『新聞教育の原点——幕末・明治から占領期日本のジャーナリズムと教育』（世界思想社）、アート・シルバークラットほか『メディア・リテラシーの方法』（リベルタ出版）

7. 独自に付加する選考方法

なし

8. 受講生に望むこと

ゼミテーマに対する強い関心と熱意を持つ人の参加を望みます。ゼミは参加者が作っていくものです。責任感のある積極的な（ゼミを楽しくしてくれる）方を歓迎します。